

じやりみち 原本

村井くんがヒゲそつちやつた!!!
(ちよつとだけ若がる)

……仮設支援情報……



第41号 発行日 97.7.17

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

「やあつと雨がやんだー!!」と思つたらセミの声。そろそろ本格的に暑くなります。なんだかんだとみんなバテている様子。体調が崩れやすいです、気をつけてくださいな。

先月からの事務局の動き

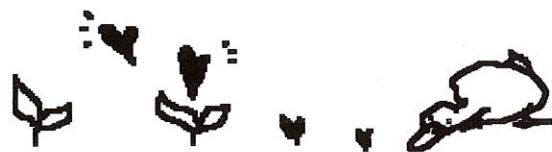
- 6/20(金) 県民ネット会議
- 6/22(日) しんげんちまつり参加(須磨・下中島公園)
- 6/23(月) 事務局会議/隆太名古屋へ(北朝鮮物資仕分け)
- 6/25(水) 松原東高校(大阪)視察受け入れ/ **全体会**
- 6/28(土) 村井くん講演(京都・京都市)
- 6/29(日) 大谷中学校(神奈川)視察受け入れ/村井くん講演(和歌山・橋本市)
- 6/30(月) 事務局会議/ **御蔵5-5の会** (共生・共創センター)
- 7/ 2(水) **ざっくばらん**
- 7/ 3(木) 市民版ひっこしプロジェクト会議
- 7/ 7(月) 事務局会議
- 7/ 8(火) 事務局会議
- 7/ 9(水) **全体会**
- 7/10(木) **提言・提案チーム**会議/ **御蔵5-5の会** (共生・共創センター)
- 7/11(金) 村井くん講演(福岡・北九州市)
- 7/12(土) 村井くん講演(福岡・福岡市)
- 7/15(火) 演劇キャラバン(神奈川・横浜市)/村井くん北朝鮮へ
- 7/16(水) **ざっくばらん**
- 7/17(木) **御蔵5-5の会** (共生・共創センター)
- 7/24(水) **全体会**
- 7/31(水) **ざっくばらん**

入らなきゃ!

～入会のお願い～

前号に申込書を同封したところ多数の申し込みがありました。ありがとうございました。引き続き入会のお願いを致します。この活動の継続は会員さんお一人お一人の力で支えられています。

(申込用紙など詳しいことは事務局までお願いいたします。)



全体会・ざっくばらんの報告

共同プロジェクト報告

6月25日 全体会

去年から始まった共同プロジェクト。毎週のように各プロジェクトごとで集まって話し合いをしています。今回は各プロジェクトさんの報告がありました。

・子供プロジェクト

ふれあいセンターの閉鎖、子どもの減少などから継続の難しさが課題として出、その問い直しを。

交流のイベントなどほかの団体さんの行うものなどのコーディネートしよう

・介護看護プロジェクト

共同プロジェクトというが、さて「共同」とは?

講座を通して得意分野を生かして仮設住宅の訪問ボランティアの育成をしたり、訪問などを通して配食サービスなどを事業化しようか?

・つなぐプロジェクト

引っ越しの件について話し合い、どういうふうに連携していこうか、引っ越しから見えてきたものは何?助成金についてなどが話されたそうで、移送プロジェクトと重なるところもあることから、プロジェクト同士の連携をもう少し考えていきたい。

・生きがい作りプロジェクト

仮設の人たちの手作り作品を販売するためのパンフレットを作ろう!

朝鮮民主主義人民共和国への支援について

村井くんが北朝鮮へ物資を届けに行くための費用について、仮設NGOが幾分かを負担することが承認がされました。

移送サービスのコーディネーター交代

コーディネーターの大切さが言われる中、なかなかそのコーディネーターをサポートするシステムがないのが現状ですが、仮設NGOではそのコーディネーターに月5万円の支援を行ってきました。移送サービスのコーディネーターをして下さっているファミリー神戸さんが物理的にしんどいということで、コリアボランティア協会さんに交代することになりました。代表については引き続きファミリー神戸さんが担当します。

スポーツ飲料の配布について

毎年夏のプレハブは40℃近くまで温度があがることや、お年寄りや生活の苦しい人は電気代がかさむなどの理由でクーラーを使うことを避けてしまうことから、脱水症状になる人が少なくありません。そういったことから一昨年からスポーツ飲料を配布しています。それがけっこう効果があるとのことで、今年も取り組んでいこうということが承認されました（別紙参照）。

7月9日 全体会

まけないぞうについて

ぐるつぶ・えんさんの始めた「一本のタオル運動」の集まったタオルから、プロジェクト結ぶさんのアイデアで「まけないぞう」が生まれました。それを仮設NGOの事業として販売していくことについて承認されました。その後はいつもの提言・提案チームからの報告と共生・共創センター（仮称）の報告があり（別ページ参照）、情報交換をしました。情報交換では引っ越しのことが話題になり、がんばろう！神戸さんの行っている市民版引っ越しプロジェクトとの連携や連絡会内での連携をいかにうまくやっていこうか？といったようなことが話されました。

村井くん北朝鮮へ行く。

うちの事務局長の村井くんが今北朝鮮へ行っています。というのも、前号で呼びかけた朝鮮民主主義人民共和国・緊急救援活動の義援金・物資を直接届けようということで、実行委員会のメンバーとして同行しているのです。中間報告を兼ねながらいまの支援物資などの状況を少しお伝えします。（7/10現在）

現在900万円を越すお金が集まっています。また穀類を中心に約15万食分の食料と、700箱分の衣類を送る手はずが整いました。主として黄海南道の被災地の子どもたちに（幼稚園・保育園・小学校・児童養護施設などの給食用食材として）直接届けるために、神戸から阪神大震災地元NGO連絡会議代表幹事／阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会事務局長の村井雅清（団長）、名古屋・新潟から各1名、及び在日本朝鮮人総連合会兵庫県本部職員が、7月15日（火）新潟港を物資と共に出航し、7月25日（金）新潟港に帰港の予定です。帰国後は、8月2日（土）午前10時より神戸YMCAで報告会を開催する予定です。

以上簡単な報告ですがこんなにたくさんの義援金・物資が集まったのも皆さまのおかげです。ありがとうございます!!!



7月2日・16日 ざっくばらん

今回のざっくばらんは共生・共創センター（仮称）を具体的に進めようよ、という内容になりましたので、共生・共創センター（仮称）の報告の方にまとめます。

医療とアートの融合？

絵画や音楽から受ける感動や想像力によって、病気と闘う人や障害を持つ人の「治りたい」という意志や心の安らぎを導く「癒（いや）し」の試みが、医療現場などで注目を集めているらしい。殺風景な病室で、心を動かされることなく長期間過ごす、健康者でも本当に病気になってしまうといった実験結果もあるそうだ。そんな中で「フィーリングアーツ」という試みがあるという。

墨汁と土、アクリル絵の具で塗り込められたキャンバスに赤、黄、青、緑のライトを当てることによって、墨と土が微妙な陰影をつくりだし、音色とともに光の色は微妙に変化し、見る人の心の風景を呼び起こすのが「フィーリングアーツ」。それぞれの心の中に絵を描くことができるのが特徴で、自分で“描く”ことが感動やひいては生きる力につながるという。

あるホスピスでは、表情のなかったお年寄りが「きれいな森やなあ」と涙を流したり、薬がなければ眠れなかった末期の患者が「ゆつたり眠れた」と話すなど、目に見える効果も表れているそうで、また光を操る装置に触れて、実際に“絵”を創造することで、生き生きとした表情を見せ始めた養護学校の子どももいるという。

「終末期の患者さんにとって、自分の歩いてきた軌跡をたどることは最も大切な作業。フィーリングアーツはそれを促すとともに、医師や看護婦にとっても自分自身を見つめ直すきっかけになり、両者にとって有意義」とお医者さんは話す。

映像や音楽による癒しの力は病院のハード面にも生かされつつある。ある病院では、「個人個人が一番快適に思える状態こそ『心のケア』につながる」と、300ほどあるベッドそれぞれに、好きな音楽などが選べる有線放送装置と、お気に入りの写真を飾れるスペースを確保。自然光の入る吹き抜けのロビーには、環境ビデオが流れるマルチビジョンが設置され、イライラしがちな外来患者にも配慮している。

「これからは、高度な医療技術とともに、患者の居住空間をいかに快適にするか、という二つのニーズを満たすことが重要」とその試みをしている病院のお医者さんがいっていたのだが、ハビタット2の居住を考えるじゃないけどおもしろそうなアイデアである。

（97/5/17神戸新聞より抜粋）



提言・提案チームの報告

7月10日に行った話し合いですが、この日は12名の方々が参加してくれ、まず次期国会継続審議が決まった「災害被災者等支援法」についての簡単な説明を始めました。その後、参加した各団体の皆さんから“公的支援について思うこと”をうかがいました。

そこから出てきた意見は、現場で活動を続けていく中で、やはり公的支援が必要なんだということを感じている、という声がほとんどでした。

「活動の中で、私たちができることにも限界があります。公的支援の勉強を重ね、社会システムをもう一度考えていかなければいけないと感じます。」

「被災地全体の動きと現場レベルでの動きがうまくリンクしていないところがある。これを今後つなげていくかが課題だと思う。」

とこのような声を受けて、今後このチームでは、勉強会や、簡単な講習ができれば、と考えています。そして、その中から私たち自身の方向性が見えたら……と思っています。

共生・共創センター（仮称）チーム

ざつくばらん、御蔵5-5の会、全体会……といろんなところで今話題になっている(?) 共生・共創センター（仮称）。現在の状況をお伝えします。

＜プレハブの改装について＞

ずいぶん準備が終わりました。なるべくお金をかけないようにと四苦八苦しているのですが、何とか手作り風のスペースができあがり始めました。ここまでやってくださった大工さんと電気屋さんに感謝。

＜中身について＞

各団体さんの関わり方を再検討しようということから始め、今では具体的に何をしようかとみんなで頭を悩ましながらかけています。今までの話し合いで出てきた40ものアイデアを本当に出来るのか、優先順位はどれか?などの話をしています。

例えば、「被災者の方々がつくったグッズを販売してみてもは?」とか、「なんかイベントができないかなあ?」など、けっこう中身の濃い話なんかもしております。

少しずつ話がまとまってきてはいるのですが、始めてみなければ分からない、といった感もあり、とにかく、わいわいとなんやかんや言いながら頑張っています。

もし皆さんに、なにか良いアイデアがありましたら、仮設NGO事務局光ちゃんまでご一報ください!!

県外避難者の今

茶話会 in ふくおか

結～ふくおか～では、16世帯ほどの県外避難者の方々とつながっていますが、今回で6回目となる茶話会には5名の方が参加されました。関西弁で自由にしゃべりたい! ということで、各々の思いを語り合いました。

＜Tさん＞

福岡に来た当初は外国に来たようで何もかもが恨めしかった。暇なのでテレビを見ては食べるという生活が続ぎ、10数キロ太ってしまった。でも、県外避難者ネットワーク（りんりん）のことを知ったり、「ひょうご便り」に投稿文が載って17人もの方から連絡が来たり、こうして茶話会に出席したりするようになって、とても元気になった。自分一人ではないという実感がとても心強い。これからは私たち自身が動いていかないと。

＜Kさん＞

福岡に来たときから、近所の方に親身になっていただき、その方の誘いでユニセフのバザーを手伝った。初め

は、こっちが助けてもらいたいのにと思っていたが、次第にそういつたボランティア活動をすることが自分の活力になるようになった。外に出て人に会えば疲れるけど、適度な緊張感を持てるし、してもらえばかりじゃなく、自分も何かできるという励みになる。

こういった声の一方で、Kさんが知り合った避難者の方の中には、「被災者だから助けてもらおう、というのはいいや。だからそういう会に入る気はない。もう神戸には戻れないのだから、一福岡市民としてがんばっていきたい」という方や、「どんな団体かわからないから住所等は教えられない。でも情報はほしい」ということでKさんの手から通信を渡して下さっている方もいらっしゃるということでした。

県外に越してこられた方皆さんに同じことが必要なかたではないということを実感し、私たち結～ふくおか～の支援のあり方を考えさせられる茶話会でした。

結～ふくおか～ 山本

《仮設は今...》

長田区編

「地道に長く」

長田区にある西代仮設住宅（元神戸市民球場）は、長田区の他の例にもれず、置かれている社会状況や国籍など、立場の異なる様々な方々が混在する仮設住宅の一つです。現在、約200世帯、400名を越える方々が住んでおられます。規模から見ても、今後統廃合が進んでも、最後まで残ることが予想されます。また、今までの住民の方々の推移を見ると、今後ますます高齢の方々の比率が増加していくことも予想されます。

西代仮設住宅は震災の年の3月に設置され、当初より、92を数えるボランティアグループが出入りしましたが、他と同様、すでにそのほとんどが撤退しています。現在、全体的な行事に関しては、ふれあいセンターを中心として自治会が統括していますが、65歳以上の高齢者の日常ケアに関しては、「長寿友の会」が主に見ています。

震災発生から2年半も経って、特に高齢の方々は、体力、財力、職業、人脈など、ほとんどの物的門戸を断たれ、同時に精神的にも住居環境の悪化などからストレスがたまり、生活を「営む」ことにすら窮々としているのが現状です。

そんな中で、西代仮設住宅では、この2年半で25名の方々が亡くなりました。（内2名の方は、自らの手で命を絶たれました。）

昨年以上に劣悪な状況の中、今年の夏には、昨夏（5名死亡）以上の犠牲者が出ることを予想せざるを得ません。頼みとなるべき行政すら、「自力復興」（そんな余裕はもうない！）を唱え続けている今、何をやっても「焼け石に水」という状況ではありますが、5年、10年と地道に長く、住民同志のコミュニティを築き上げていくことで関わり続けていきたいと思っています。

コリアボランティア協会 チヨン・ピョンフン



仮設住宅 契約戸数3万世帯割る 大震災から2年半

兵庫県は16日、阪神大震災の被災者向け仮設住宅（兵庫県、大阪府内）の契約戸数が初めて3万世帯を割り、2万9970世帯になった、と発表した。しかし、推定住民数は依然5万4000人。17日で震災から2年半を迎えるが、これから来年初めにかけて恒久住宅への移転が本格化する。

同県によると、仮設住宅の契約戸数のピークは1995年11月の4万6617世帯。その3分の1に当たる約1万6600世帯が移転したことになる。今年9月には1万戸を超える災害復興公営住宅の募集が予定されている。

しかし、仮設住宅では、自宅再建など自立可能な被災者が転居し、高齢者ら社会的に弱い立場の人が残される傾向にある。このため、ボランティア団体は引っ越し支援や新たなコミュニティ作りを最大の課題にすえている。

（1997年7月17日・毎日新聞朝刊）

「もう」といったらいいのか「まだ」といったらいいのか分からないが、「2年半」という月日が流れた。上にも書いたように、ずいぶんと各仮設住宅で転居が始まっている。この前北区の仮設住宅に住んでおられる方と話をしていたのだが、どんなに話さないお隣さんでもいなくなると一気にひっそりとなり、不安感が募るそう。そこに「人がいる」というたったそれだけのことが「安心」であったんだということを痛感したという。お年寄りにとってはこのうえない孤独感だろう。その人は「まだまだ孤独死はでるで」とはっきりという。住んでいる者の実感なのだろうが、何とも答えようがなかった。

ひかる



全国からの被災地を知りたいという学校単位の動きを、被災地視察受け入れとして何回か受けています。今回は「ぐるうぶ・えん」さんにも大谷中学校の報告していただきました。

こんにちは。「ぐるうぶへん」イヤイヤ「ぐるうぶえん」です。先月の29日(日)に台風一過の晴天の下に行われた、昼食会の模様をお伝えします。

4月に私たちは、須佐野公園のテント村から現在の中道通の方に拠点を移動しました。名前も「ちびくろ救援ぐるうぶ」から「ぐるうぶえん」に改名しました。今回は、その公園での私たちの救援活動の中心で、同じ公園内の須佐野地域型仮設の方に、新しい拠点のお披露目も兼ねて行いました。

当日は修学旅行の一環で一日体験ボランティアで訪ねてきた神奈川県の大谷中学校の学生たちとの交流会も行われました。

今春、同じ兵庫区内の明和高層住宅に引越された方にも声をかけ、当日は15名の方に参加して頂きました。酒えん自慢の村田氏の料理はもちろんだ好評で、みなさん残さず召し上がっていかれました。

昼食を召し上がって頂いた後は、大谷中学の学生たちがちょっとした出しモノをしてくれて「校歌はどんなんや」という仮設のWさんのリクエストに応じて校歌も合唱してくれました。会は終始なごやかな雰囲気が進みました。学生たちも出しモノの後は緊張がほぐれたのか、交流会らしく会話も弾んでいました。

このような学生が、研修や一日体験ボランティアに来る度に、私たちはいつも須佐野地域型仮設の方々に世話になっています。今回も仮設のTさんが手作りのキーホルダーを学生全員にプレゼントし、学生たちは大喜びで帰っていきました。

今回の昼食会は、今秋にも全世帯数の半分以上にまで減ってしまい、ますます淋しくなってしまうのと、こもりがちな住民の方々に新しい拠点をもらい、あそここにいったら何かあるって感じで何かのついでにでも寄ってもらえたらな～という気持ちをこめて催しました。

そんな訳で、行きは車でお迎えに上がりましたが、帰りは2～3名の方を除いて、そのまま仮設に帰る方、ちょっと足をのばして湊川商店街で買い物をしてから帰る方など、みな各々に帰っていかれました。

昼食会後に、ぐるうぶえんに訪ねてきてくれた須佐野地域型仮設の方はまだいませんが、今までの救援活動の中でのえんから、近くの他の仮設の方や、西神の仮設から私たちの近所に引越された方たちが、足を運んで様子を伺いに来てくれます。

そんな、おっちゃんおばちゃんの心温まる溜まり場を目指していきたいです。

ぐるうぶえん一同

公的支援を考える

前々回に「ぐるうぶ・えん」さんが発信した「公的支援についてこう思う」という全国の声の一部掲載します。公的支援の問題は被災地だけのものではなく、そして全国のこういった声が行政への提言・提案活動につながるといいます。秋の国会にぜひこういった声を届けたいと思っていますので、ぜひ皆さんの意見をお聞かせください。

私は福岡に住むものですが、国の最も大切な仕事・役割は国民の生命・財産を守ることである。災害を未然に防ぐは勿論、被害者を救済するのは当然であり、急務である。よって公的支援の実現を訴えます。

私は静岡県に住むものですが、

「公的支援」という名ばかりの支援ではなく、本当に被災者の立場を考えた措置を行うべきである。今、立法化しなければ、今後またいつどこかで起きうるであろう震災・津波といった大災害時に、同じ事を繰り返し、被災者に困惑と不安、そして怒りをもたらすことになる。「今、何をすべきか」私は一国民として国に問いたいと思います。よって公的支援の実現を訴えます。

私は埼玉県に住むものですが、地震等自然災害は本当にどこに住んでいても人ごとではありません。これから同じ様な災害が起きると思われまふ。国としてもっと真剣に考えてほしいと思います。よって公的支援の実現を訴えます。

私は東京都に住むものですが、

ボランティアの目覚ましい活動は実に力強い限りでしたが、公的支援がより力強く敏捷に実行されるために、日頃から備えを考えて欲しいと熱望します。それこそ血も涙もある真の政治だと思ひます。よって公的支援の実現を訴えます。

各団体さんの活動日誌

共同プロジェクトが加わったことから各団体さん大忙し。一緒にちからを合わせて、やる内容が増えてきました。

7/1(火)

お米・ゲーム引き取り(西宮助け合い)
戸別訪問/白浜(姫路心のケア)
引越サービス/新多聞仮設(アバウト/えん)

7/2(水)

移送サービス/東灘区青木(わかちあい阪神)
ふれあい喫茶「あばうと」/新多聞仮設(アバウト)

7/3(木)

さくらんぼ会議/枝川仮設(西宮助け合い)
チラシ配り/西宮北口(西宮助け合い)
住宅訪問/駅南町(姫路心のケア)
病院送迎/湊町公園仮設(えん)
ミニバラソール会議(西宮助け合い)

7/4(金)

移送サービス/灘区(わかちあい阪神)
仮設住宅訪問/大和・寿・高羽仮設(大阪YWCA)
喫茶すさの/須佐野仮設(えん)
七夕笹くぼり/尼崎市内10ヶ所の仮設(マイム・マイム)
笹取り・買い出し/能登町・河原町(西宮助け合い)

7/5(土)

現代座「絆をつくる町」/神戸新聞松方ホール(週末ボラ)
住宅訪問/御国野(姫路心のケア)
戸別訪問「どないでつか」/高須・上田西仮設(結ぶ)
七夕祭り・バサ・やきうどん/春風公園(西宮助け合い)

7/6(日)

戸別訪問/玉手・白浜(姫路心のケア)
七夕まつり・茶話会・バサ(マイム・マイム)
引越サービス/西神第七セーの台仮設(えん)
岡本光彰コンサート(週末ボラ)

7/7(月)

仮設住宅訪問/枝川仮設(大阪YWCA)
手芸教室「しじみちゃん」(結ぶ)
七夕まつり/西神第七仮設(支援ネット)

7/8(火)

お米引き取り(西宮助け合い)

7/9(水)

移送サービス/東灘区青木(わかちあい阪神)
ふれあい喫茶「あばうと」/新多聞仮設(アバウト)

7/10(木)

鷹取教会に自転車提供(姫路心のケア)
病院送迎/湊町仮設(えん)
引越サービス/新多聞仮設(えん)
ミニバラソール(西宮助け合い)

7/11(金)

移送サービス/灘区(わかちあい阪神)
親子教室「ラプライフワーク」/すくーすばる(結ぶ)
仮設住宅訪問/淀川十八条仮設(姫路心のケア/大阪YWCA)
仮設住宅訪問/大和・寿・高羽仮設(大阪YWCA)
在宅ケア(えん)

7/12(土)

仮設住宅支援訪問/岩谷第二仮設(週末ボラ)
戸別訪問・チラシ配り(西宮助け合い)
在宅ケア/須佐野仮設(えん)
引越サービス/西神(えん)

7/13(日)

そうめん流し・氷まつり(支援ネット)
バーベキュー/須磨海岸(子どもプロジェクト)
1/レーバサ/南台・二十・向田・食満(マイム・マイム)

7/14(月)

仮設住宅訪問/枝川仮設(大阪YWCA)
物品移動/東灘区青木(わかちあい阪神)

7/15(火)

移送サービス/灘区・東灘区(わかちあい阪神)
お米引き取り(西宮助け合い)
戸別訪問/白浜

7/16(水)

引越サービス(えん)
ふれあい喫茶「あばうと」/新多聞仮設(アバウト)

7/17(木)

1/サイクルショップ「くろりん」フェア(〜19日)/くろりん(結ぶ)
戸別訪問調査・チラシ配り(西宮助け合い)
事例研究会/神戸市(姫路心のケア)

7/18(金)

移送サービス/灘区(わかちあい阪神)
エブリー・しじみちゃん/枝川仮設(結ぶ)
仮設住宅訪問/大和・寿・高羽仮設(大阪YWCA)
喫茶すさの/須佐野仮設(えん)

7/19(土)

エブリー・しじみちゃん・どないでつかなど/鳴尾浜仮設(結ぶ)
住宅訪問/御国野(姫路心のケア)
仮設住宅支援訪問/岩谷第二仮設(週末ボラ)
さわやかバラソール/甲子園九番町(西宮助け合い)
東灘区民「夏祭」参加/東灘区住吉川(わかちあい阪神)
レストラン「さくらんぼ」(西宮助け合い)

7/20(日)

戸別訪問/白浜・玉手(姫路心のケア)
人形劇とドロネンド遊び/新多聞仮設(アバウト)
1/レーバサ/福住・浜田・下稲葉・明神町(マイム・マイム)

7/21(月)

仮設住宅訪問/枝川仮設(大阪YWCA)
引越サービス(えん)

7/22(火)

戸別訪問/白浜(姫路心のケア)
第1回おふろサロン/武庫川温泉(西宮助け合い)

7/23(水)

移送サービス/東灘区青木(わかちあい阪神)
ふれあい喫茶「あばうと」/新多聞仮設(アバウト)
入浴サービス/新多聞仮設(アバウト/えん)
石井布紀子講演/三重県津市(結ぶ)
観劇ツアー「お出かけちゃんバラ隊」/各仮設住宅(結ぶ)

7/24(木)

エブリー・しじみちゃん・どないでつかなど/鳴尾浜・西宮浜仮設(結ぶ)
住宅訪問/駅南町(姫路心のケア)
ミニバラソール(西宮助け合い)

7/25(金)

移送サービス/灘区(わかちあい阪神)
親と子の1/ラックスタイム「しやらん」(結ぶ)
仮設住宅訪問/大和・寿・高羽仮設(大阪YWCA)
在宅ケア(えん)

7/26(土)

イベント玉手なつまつり/玉手(姫路心のケア)
おふろツアー/茨木弁天・能登町・河原町(西宮助け合い)
仮設住宅支援訪問/岩谷第二仮設(週末ボラ)
在宅ケア/須佐野仮設(えん)

7/27(日)

戸別訪問/白浜・玉手(姫路心のケア)
おふろツアー/池田(マイム・マイム)
おふろツアー・お米バサ/尼崎高原ロッジ・神崎仮設(マイム・マイム)
石井布紀子講演/福井県福井市(結ぶ)

7/28(月)

仮設住宅訪問/枝川仮設(大阪YWCA)
チラシ配り/浜戎公園(西宮助け合い)

7/29(火)

戸別訪問/白浜(姫路心のケア)

7/30(水)

移送サービス/東灘区青木(わかちあい阪神)
ふれあい喫茶「あばうと」/新多聞仮設(アバウト)
中高生100人受け入れボランティア体験/西神第七仮設(支援ネット)
ハートネットワーク運営委員会/白浜(姫路心のケア)

阪神淡路大震災支援CD「三色スミレ」

作詞・作曲・うた：野中 宏樹

「ぼちぼちいこが」「三色スミレ」¥1,000

このCDは阪神・淡路大震災の被災者と今も続いている「被災」を覚えていただくために作りました。収益のすべては日本パプテスト連盟震災募金となります。

問い合わせ：日本パプテスト連盟 浜甲子園教会内 森山一弘

TEL/FAX：0798-41-5300 〒663 西宮市浜甲子園3-5-23

緊急救援 隣人の飢餓を救おう！ ～北朝鮮の人々に米を～

仮設NGOでも緊急救援の呼びかけをしましたが、様々な団体がいろいろな形で救援活動を行っています。神戸で長く活動をともしたSVAさんからの願いを転載します。

1995年と96年の2度に渡って大水害に見舞われた北朝鮮は、現在深刻な食糧不足のため、人口2300万人のうち約30%が栄養失調状態にあり、数百万人とも言われる人々が飢餓に直面しています。中でも、子どもたちの置かれている状況には想像を絶するものがあり、すでに数千人が亡くなっているとも予想されています。しかし日本社会において北朝鮮に対する不信感は募る一方です。こうした中、去る6月中旬、SVAは現地に調査団を派遣し、その実態を確かめてきました。そこで見た状況は地獄絵図であり、目の前でガリガリに痩せ細り病院のベッドに横たわって動かぬ視線でただ死を待つしかない姿は、飽食に浸る日本では考えられない有様でした。

SVAは国家観の政治的課題を乗り越え、人道的見地に立脚して現地に事務所を持つ国連世界食糧計画(WFP)と協力し、日本で食料を募って現地の子どもたちや被災地区の住民たちに届ける運動を展開することに決定しました。救援物資はボランティアの方々の協力を得て全国各地の集積所に集められ、梱包された後、新潟からSVAのスタッフも船に乗り込み、北朝鮮の港、元山に送られます。現地の配布にはWFPやSVAのスタッフが立ち会い、間違いなく現地の人々に届けられます。

みなさん、是非とも一握りのお米をお持ちよりいただき、私たちのまごころで一人でも多くの尊い命を救おうではありませんか。

救援物資

・米(白米、玄米)、缶詰(魚、肉、野菜 96年以降に生産されたもの)、乾麺(そば、うどん、冷や麦など)

※送付方法

・とくに米については、外にこぼれることのないようにご留意の上梱包して下さい。

・救援物資を現地まで送る際、輸送料や諸経費がかかりますので、物資とともに、段ボール箱(みかん箱)一個につき2000円程度、缶詰の場合一個につき100円程度のカンパをお願いいたします。

*送付先

北海道・青森・宮城・山形・栃木・埼玉・千葉・神奈川・長野・新潟・静岡・愛知・奈良・山口・熊本・大分の16ヶ所に受付先を設けています。集める期間・物資については下記までお問い合わせ下さい。なおSVA東京事務所では物資の扱いをしておりませんので予め御了承下さいませ。

義援金

国際価格でお米を買い付けて現地に贈ります(日本の1/10以下の値段で入手できます)

※送付方法

・郵便振替

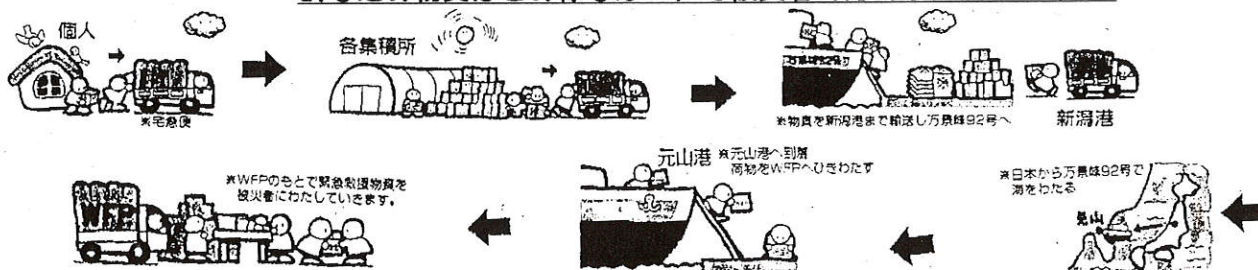
口座番号 00170-8-397994

加入者名 「SVA緊急救援募金」

*通信欄に「北朝鮮食料支援」とお書き下さい。

*皆様から頂いた募金を有効に活用するため誠に勝手ながら「払込票受領書」をもって領収書に代えさせていただきます。

あなたの物資はこの様なルートで被災者の方の手に届きます。



主催：曹洞宗国際ボランティア会 (SVA)

後援：国際連合世界食糧計画 (WFP) 日本事務所

問い合わせ先：東京都豊島区巣鴨1-28-5ヒカリビル202 SVA東京事務所

TEL:06-3945-0981 FAX:03-3942-7900

97年夏の企画

原本

すずかぜ

もっと ちょっと 涼風プロジェクト PART 2

ちよつとだけ、仮設住宅にお届けしたくて...

この夏もスポーツ飲料の配布を行います。

一昨年、昨年に続きこの夏もうだるような暑さをほこる仮設住宅にお住いの方を対象としたスポーツ飲料の配布を行いたいと思います。

元気と涼風をお届けできるといいのですが...

みなさまにはスポーツ飲料購入費カンパをお願いいたします。「よし!カンパするぞ」という方は以下のようにお願いいたします。

一口 3,000円

(1ケース24本分+送料600円とさせていただきます)

振込先

郵便振替 加入者名：仮設NGO

口座番号：01180-6-68556

※(備考欄に必ず「スポーツ飲料代と明記して下さい)



問い合わせ先

阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会

〒653 兵庫県神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 FAX: 078-578-6923